

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

東京都渋谷区本町六丁目一八の二コーポル幢ヶ谷九〇四 電話(03)333771-4649

FAX(03)329915367

振替 〇〇一〇〇一九一五八四三一 労金 東京労金本店 No.1154163

購読料 月額600円 6カ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言

川田えつこさんの講演は国鉄闘争の未来

矢田 昌三……2

JRの不当労働行為は許さない「五・三〇共闘会議」結成集会に参加して

◇資料1◇ 二一世紀の輝ける一歩を

内田 泰博……2

私たちは国労運動を継承し、運動をすすめる

◇資料2◇ がんばれ闘争団ともにGO!五・三〇集会アピール

……3

人権侵害を許さず、社会正義を実現

◇資料3◇ がんばれ闘争団「行動提起」

……4

あふれかえる熱気、あふれる集会

滝野 忠……5

―「五・三〇共闘会議(準)結成集会」から―

郵政民営化で地域社会はさらに荒廃

……6

―郵政民営化は金融資本の悲願―

連合労働運動の現状について

……9

小泉「行革断行」内閣で失業はさらに増加

……11

―失業発生構造は重層的―

強制配転大反対

……13

―人の道にはずれている―

読者からのおたより……13 編集部だより……10

旬刊 社会通信

NO. 805

二〇〇一年六月二二日号

二〇〇一年六月二二日発行
(毎月一日・二二日・二二日三回発行)

川田えつこさんの講演は国鉄闘争の未来

JRの不当労働行為は許さない「五・三〇共闘会議(準)結成集会」に参加して

五月三〇日、日比谷公会堂は、三〇〇〇人の思いで埋め尽くされた。

この会議の呼びかけ人を代表して、作家の宮崎学さんは開会挨拶で、「この闘争に勝利するには、闘争団が決意を固めるしかない」と言わば第六七回国労定期大会を総括したうえで、「皆さんと苦楽をともにしたい」と決意表明を行った。

特別講演をした川田えつこさんは、「これは人間の尊厳を取り戻す闘いだと思いました。皆さんと一緒に人間の尊厳を取り戻していきたい」と静かにそして熱く語り、薬害エイズの闘いやハンセン病国家賠償責任追及の闘いに身を投じてきた者として、「一人ひとりの闘いが繋がったとき、社会を変えられることができると思います」と国鉄闘争の未来を語った。

闘争団家族会の藤保美年子さんと二人の闘争団員は、「一四年間の闘いを無駄にせず、納得のいく解決まで闘います」と、二六闘争団(家族)としての決意を鮮明にした。

国鉄闘争が闘われて十五年の歳月が流れた。たしかにこの歳月は国鉄闘争を、「国家的不当労働行為に対する闘い」として位置づけた月日でもあった。また、この闘いは、あらゆる意味で、労働者・市民に大きな課題を投げかけてきた。そしてこの集会における闘争団(家族)の投げかけは、集会参加者一人ひとりに、「共に生きるためには、自分自身の頭で考え、動くしかない」と感じ取らせた。

この集会の最後に採択された集会アピールは、「国労闘争団員ら一〇四七人の一四年余りにおよぶ人生をかけた不屈の闘いは、そうしたリストラ万能の大失業時代と対峙する広範な戦線の最前線に位置しています。不当労働行為という人権侵害を許さず、社会正義を実現しようという彼らの願いは、私たちの願いでもあります。国労闘争団をはじめ、志や思いを同じくする全国の労働者、市民と手をつなぎ、新しい運動の輪を広げ強めていくために、私たちは奮闘します」と結んだ。

私たちの願いが、「差別や抑圧のない社会」、「不当労働行為を許さない社会」を目指すものである以上、やはり今の流れをくい止めなければならない。そのためには、自立した労働者・市民の願いと力を、今まで以上に結集していくしかない。国鉄闘争を支援・共闘していく意味もこのことに尽きる。

この集会は、こうしたことを力強く意識づける集会となった。

「本日の集会をスタートに展望を開きたい」という闘争団の声が、冷静に、五・三〇集会を語っている。
(大分県「国鉄闘争に連帯する会」・矢田 昌三)

◆資料2◆ 二一世紀の輝ける一歩を

私たちは国労運動を継承し、運動をすすめる

リストラの原点である国鉄の分割民営化は一九八七年四月に実施され、それに至る過程で一〇万人に及ぶ国鉄職員が職場を追われました。私たちは組合差別によって地元JRに

採用されず、国鉄清算事業団雇用対策支所には全国の国労組合員をはじめ七六二八人が送り込まれ、一九九〇年四月一日、最後までリストラと闘った一〇四七人が不当労働行為と人権侵害を受けた挙げ句、解雇されました。

国鉄改革で白昼公然と行なわれた、国労組合員への不当労働行為と人権侵害は人間関係を破壊し、私たちの人格を否定し、人間としての尊厳を踏みつけにしました。私たちは解雇撤回・地元JRへの復帰を求め、司法・立法・行政の国家権力と対峙した国鉄闘争に踏み出したのでした。この闘いが一四年目を迎えた昨年五月三〇日、私たちが責任を追及してきたJRに「法的責任なし」を大会決定するよう迫る四党合意が突如、浮上しました。国労はこの四党合意を今年一月二七日、前代未聞の機動隊導入までして第六七回国労全国統開大会を開き、マスコミと当事者である闘争団の傍聴も制限して、強行採決しました。私たちは労働組合としてあるまじきこの大会決定を、国労組合員として許すことは出来ません。

全国各地で各界・各層から様々な支援を受けてきた私たちの一四年間の闘いはいったい何だったのでしょか！ 解雇された当事者の闘争団員とその家族が自分たちの人生を自ら決めたいと言うことのどこが悪いと言うのでしょうか！

誰が見ても四党合意はおかしなものです。国家的不当労働行為は巧妙かつ大胆に行なわれましたが、真実は一つしかありません。私たちは採用差別され、解雇された当事者として広く社会に訴え、大衆運動を主体的に実践することで、必ず納得出来る解決に到達できると確信しています。

闘う労働組合を潰す戦略は今でも生きています。労働基本権まで破壊されようとしている今、労働者自らが自主・自立した闘いに立ち上がらなければならないと思います。

国労組織内の混乱に拍車を掛け迷走する国労本部は「木を見て森を見ない」と言わざるを得ません。その中で、着実に「嵐は木を強くする」という言葉のごとく、闘うことを鮮明にした国労闘争団は、国労運動を真に継承し、運動を進めています。

私たち、解雇撤回・地元JR復帰を闘う国労闘争団は、今日が輝かしい二一世紀に相応しい新たな労働運動の歴史的な一歩となるよう訴え、納得できる解決を目指します。

(解雇撤回・地元JR復帰を闘う国労闘争団 共同代表 内田 泰博)

◇資料1◇ がんばれ闘争団ともにGO！ 五・三〇集会アピール

人権侵害を許さず、社会正義を実現

今日、私たちはここに集い、「JRの不当労働行為は許さない！ 国労闘争団共闘会議」の準備会を結成しました。一人ひとりが主人公の新たな運動への船出です。ちょうど一年前の今日、与党三党と社民党はJRの採用差別問題について、国労へ「JRに法的責任がないことを認める」よう求める政治解決の枠組み、いわゆる四党合意を示しました。それは、一九八七年の国鉄改革という国家的リストラに伴う史上最大規模の国家的不当労働行為について、被害者へ全面屈服を迫り、政府・JRの加害者責任を闇に葬り去る企みにほかなりません。

採用差別の不当労働行為責任はJRにあると認定した労働委員会の救済命令を支えに、JR復帰と名誉回復を求めて苦闘してきた国労闘争団員ら一〇四七人と家族にとっては、人生を否定されるものでした。争議当事者の思いは、「私たちの人生を勝手に決めないで」という叫びに凝縮されています。しかし、国労は去る一月、機動隊の導入など異常な大会運営の下で、四党合意の受け入れ

を決めました。受諾の代償が、闘争団の求めるJR復帰や賃金のバックペイなどではなく、「人道的観点」からのごく少数の新規採用と涙金程度の和解金にすぎないことは、今や誰の目にも明らかです。

そんな幕引きを潔しとせず、「自らの人生は自ら決めよう」と、多くの闘争団と有志が自立した闘いを決意し、ILOや最高裁へ公正な判断を求めるなど、様々な取り組みを開始しました。国労本部は、彼らに対して解決の妨害をする者と声高に非難しています。だが、正義は、国労の大義を最も忠実に体現し、最も苦闘してきた彼らにこそあります。大会決定の名をもって、人権侵害と闘う個人の権利を奪うことなど、許されるはずありません。いま、「市場原理むき出しの資本主義」が世界を席巻しています。この国でも規制緩和やリストラの嵐が吹き荒れ、三〇〇万を超す人々が失業に苦しんでいます。営業譲渡などの企業再編では、全員解雇・選別採用という「国鉄改革方式」が大手をふって横行するようになりました。不当労働行為のやり得が蔓延し、憲法や労働法で定め、人間らしく働くための権利やルールは、あつてない状態です。

国労闘争団員ら一〇四七人の一四年余におよぶ人生をかけた不屈の闘いは、そうしたリストラ万能の大失業時代と対峙する広範な戦線の最前線に位置しています。不当労働行為という人権侵害を許さず、社会正義を実現しようという彼らの願いは、私たちの願いでもあります。

国労闘争団をはじめ、志や思いを同じくする全国の労働者、市民と手をつなぎ、新しい運動の輪を広げ強めてくために、私たちは奮闘します。

◇資料3◇ がんばれ闘争団「行動提起」

準備会の目的

解雇撤回・地元JR復帰をはじめとして国労闘争団の解決要求の実現を目指します。さらに全国の職場・地域に支援の運動を広める取り組みを行います。

準備会代表及び事務局

代表世話人については、呼びかけに賛同していただける各界の皆さんとご相談しながら、お願いしていきたくと考えます。なお、準備会の運営については当該であります闘争団が結成までその任務を担いたいと思います。

当面の行動の取り組み

一つには、共闘会議の結成に向けて皆さんと相談しながら、準備を進めていきます。結成総会については全体情勢をにらみながら九月をメドに結成を進めて行きます。

二つには、すでに「JRの不当労働行為は許さない! 国労闘争団共闘会議」が各県で結成されて来ています、引き続き結成を呼びかけ、全国に国労闘争団支援の会の結成を呼びかけたいと思います。

三つには、大量リストラに立ち向かうために労働運動の再生を目指すうえで、闘争団の支援を広げる集会を全国各地で開催します。

【重点地区】札幌、仙台、埼玉、神奈川、千葉、東京二三区、静岡、名古屋、京都、大阪、福岡、鹿児島

四つには、現地闘争団を激励し、交流を深める取り組みを行ないます。

五つには、会報の発行とインターネット通信で国鉄闘争の現状と闘争団の闘いを広めます。

六つには、現在進めている最高裁に公正な判断を求める署名の取り組みと合わせ、国土交通省、最高裁に対する要請行動を当該の闘争団と取り組む。

【具体的行動】六月末 要請、提出行動

七つには、闘う闘争団を財政的に支援する一億円カンパの取り組みを呼びかけます。

【具体的行動】一億円カンパ要請(左記の通り) 闘う闘争団を財政支援する一億円カンパのお願い。

振込先

◇郵便振替口座◇ 名義「闘う国労闘争団」 口座番号001600-4-32404

◇中央労働金庫 田町支店◇ 名義「闘う国労闘争団」(普通) 6886688

あふれかえる熱気、あふれる集会

—「五・三〇共闘会議(準) 結成集会」から—

情勢は大きく変わったが

とつぜんの「四党合意」受諾から一年、二〇〇一年五月三〇日、「J.Rに法的責任なしの四党合意はけつして認めることはできません」と、「解雇撤回・地元J.R復帰をめざす闘う闘争団」を結成した仲間とさらに支援・連帯・共闘の輪を上げようと、これまで国鉄闘争をわがこととして取り組んできた共闘の仲間たちが、「J.Rの不当労働行為は許さない! 国労闘争団共闘会議準備会」結成集会を開催した。

場所は東京・日比谷公会堂。日比谷公会堂は国鉄闘争にとって思い深い場所だ。一九八五年十月、国鉄分割民営化に反対し必死でたたかっていた時、「国鉄分割民営化に反対する国民会議」が、この会場で大集会を開いた。会場いっぱい人があふれ、労働戦線再編成下の労働運動に活を入れた歴史的集会となった。

五月三〇日の集会はそれとはまったく違う条件の中で開かれた。四党合意で国労が二分されたばかりか、労働運動はユニオン連合下で「抵抗・要求型労働運動は時代遅れ、今や参加型労働運動がめざされなければならない」と、労働運動をめぐる雰囲気も一変させられてしまったからである。そうした労働運動の反映が政治の沈滞、小泉の登場をもたらした。こうしたなか、こんな大きな会場で集会をおこなうというのだから、「人が集まってくるだろうか」との一抹の不安もあった。

こんな不安は無用であった。闘う闘争団の仲間の「解雇された当事者の闘争団員とその家族が自分たちの人生を自ら決めたいと言うことが悪いというのでしょか」、「輝かしい二一世紀に相応しい新たな労働運動の歴史的第一歩となるよう訴え、納得できる解決をめざします」との気持ち、全国の仲間の心をふるわせた。集会は一五年前以上もの仲間の参加と熱意と熱気でもものみごとに成功した。国労闘争団・家族、国労組合員、そして全国の共闘会議の底力を示した集会となった。

あきらめてはいけない

賛同呼びかけ人の宮崎氏(作家)は「闘争団とともに苦楽をともに歩みたい。闘う決意なしに勝利はない。今日、その歴史的な一歩が刻まれた」とあいさつ。

集会のメインはエイズ訴訟裁判で国とたたかいつづけて勝利された川田えつ子さん。川田さんは「あなた方にたたかいは人間の尊厳をとりもどす闘い。皆さんといしよにやりたいとここに来た」と、息子龍平君との二人三脚の一〇年余の日々をたんたんと語り、三千余りの集会参加者に大きな感銘を与えた。とりわけ印象深かったのは「人は社会の中で生きていく。被害者が隠れるようにして生きる、こんな社会はおかしい」「人間はうらみ、怒りだけでは生きられぬ」「胸を張って、人間らしく生きよう」「あきらめないこと、これが裁判で学んだこと」と国労闘争団・家族、集会参加者を励ました。

川田えつさんは今国会議員となった。その彼女の抱負をこう語った。「人権、人の生命を大事にする国をつくりたい。」そうした国づくりは「一人一人のたたかいがつながっ

た時、政治状況を変えていく」と。

それに応えたのが藤保美年子さん（北海道・音威子府闘争団家族）。藤保さんは昨年七月一日の臨時大会で、会場の声に後押しされて登壇、「私たちの人生を勝手に決められてはたまらない」と訴え、運動の流れに大きな影響を与えた。「人間らしい生活をするためにはたたかいつづけなければ」と訴えた。

この二人の女性の生き様に、権利がブルドーザーで押しつぶされようとしている現状下の原点がある。

集会はさらに盛り上がった。矢澤賢氏（都労連執行委員長）は、「国鉄闘争は誇りを守った労働者の共有財産」と述べるとともに、「なん年かかろうと、闘争団と連携し闘い続ける」、「国労の旗の下で勝利をもぎとる執念を燃やせ、国労指導部に労働運動を精算させてはいけない」と激励した。

ウソつかれたことがくやし

各界からは加藤晋介（弁護士）、富山よう子（消費者連盟会長）が、さらに北海道と九州の共闘の仲間中村氏（オホーツク連帯する会）、矢田昌三氏（大分県・国鉄闘争に連帯する会）の四人が、「責任なしの解決でいいのか」（加藤氏）、「人権が何よりも重要」「いざという時は皆様と行動を共にする」（富山氏）、「リストラ、組合つぶし、国鉄分割民営の惨劇が公務員全体に」（中村氏）、「私自身がどう考え行動するかがためされている」（矢田氏）と訴えた。

フィナーレは会場に結集された闘争団の仲間たち二六闘争団の二二人の仲間が次々と一分間スピーチ。「一人でも思っていたが、たくさんの人に励まされた方がいい」、「本部からわが闘争団は（闘う闘争団から）落ちたといわれているが、全員健在」、「どんな事態でも壊れない運動をつくる」、「JR復帰が団の願い」、「株主総会でJRの非道を追及する」、「国労の組織人として最後までがんばる」、「人間の尊厳として闘う。ハンセン病訴訟に涙」、「今日の感動で勝利までがんばる」、「音威子府の人口の三倍もの人の応援に感激」、「ウソつかれたことがくやしい。これでは引き下がれない」、「一年たつて四党合意では何もすまないことがわかった」と、それぞれに明るい表情で思いのたけを語った。

闘争団の代表は内田泰博氏（旭川）原田亘氏（鳥栖）のお二人。原田氏はILO第二次派遣で五月二九日に成田を出発している。こうして、新たな段階に入った国鉄闘争はだれもの予想をこえて、歴史的な第一歩を刻んだ。これからの国鉄闘争は支援・連帯の枠をこえ、ともに闘う、そして日本労働運動を国鉄闘争勝利で再建するとの気概が求められる。

なお、闘う闘争団から、「闘う闘争団」に集う闘争団員は二六闘争団、五百名と報告された。（滝野 忠）

郵政民営化で地域社会はさらに荒廃

— 郵政民営化は金融資本の悲願 —

小泉内閣は「郵政三事業民営化」を「改革断行内閣」の目玉としました。郵政労働者は

金融自由化、行政改革会議のなかでいやになるほど論じられ、振り回され、全通労働運動が変質させられたテーマですから、「もういいよ」といわれる問題です。しかし、郵政関係者以外には意外と知られていない問題です。したがって、郵政三事業「見直し」（民営化）問題について考えてみます。

郵政省、郵政事業庁、郵政公社

郵政民営化については①金融自由化、②郵便局の民営化は世界の流れと、行政改革会議では中央省庁再編、公務員制度のあり方とならんでもっとも大きな問題となりました。さまざまな議論の末、一九九七年十二月、行政改革会議での結論はこうなりました。

一、総務省に、郵政三事業にかかわる企画立案および管理を所掌する内部部局として郵政企画管理局（仮称）を置き、同時業の実施実務を所掌する外局（実施庁）として郵便事業庁を置く。

二、郵政事業庁は三事業一体として、五年後に新たな郵政公社に移行する。

三、職員の身分は国家公務員としての身分を特別に付与する。

四、新たな公社（郵政公社）制度は、国の企業（国営）、独立採算（貯金、保険資金の自主運用）、身分は国家公務員とし、設立にあたっては個別の設置法にもとづく（法律で規定）というものでした。

今年一月の省庁再編で旧郵政省は郵政企画管理局（立案部門）と郵政事業庁（現業部門）に分離・分割され、現在、三年後の郵政公社化のための法案づくりに入っていました。小泉は「これでは生ぬるい」と民営化に着手するというのです。なぜ民営化なのでしょう。それには、日本の郵便局の特徴を知ることが必要です。

日本の郵便局は世界最大のバンク

日本の郵便局には世界にはない大きな特徴が二つあります。一つは、安全・確実・迅速でこれは集配関連労働者の熟練とプロ意識によってもたらされてきました。もう一つは、日本の郵便局は「ポスト」＝郵便事業（手紙、ハガキ）だけではなく、日本で最大であるばかりでなく世界最大のバンク、保険会社でもあることです。

バンクでは二百五十兆円の預金をもっていますし、保険では百兆円をこえますから、じつに四百兆円にちかひ、世界最大の金融機関だということです。その規模がいかにでかいかは、都市銀行再編で世界最大の資金をもつ銀行となった「みずほ銀行」の預金残高が六十兆円でしかないことにも明らかで、都市銀行の総預金残高と郵政貯金残高がほぼ同じというところにも現れています。

この膨大な貯金残高の使われ方も、世界の郵便局にはない特徴をもっています。というのは、これら資金は大蔵省に集められ、第二の予算といわれる「財政投融资金」のもととなつて公共事業に割りふられたばかりでなく、何百とある特殊法人（官僚の天下り団体）の資金供給源として、日本資本主義の資本蓄積システムをつくってきたからです。

もう一つの大きな特徴は、この膨大な資金の分配をテコに、予算にあつた公共事業費とともに自民党の政治支配、利権構造をつくってきたことです。

大金融資本の利益を代弁

なぜ小泉は郵政民営化を「改革断行内閣」の目玉にしようとするのでしょうか。それには、だれが郵政民営化を望んでいるかを知る必要があります。

郵政民営化の声がでなくなったのは、一九九五年、金融自由化（金融ビッグバン）が大騒ぎされた時です。銀行屋、保険屋は「郵便貯金は銀行・保険業界の企業を圧迫している。郵貯、簡易保険の総額は四百兆円にもなる。この資金を民間に回せ。そうすれば二、三%の利ざやを想定しても、五、十兆円の儲けにつながる」と主張したのです。その声は今でも変わりません。小泉はその声に乗っかっているということです。

小泉の国会答弁はまだ始まったばかりですが、大きな特徴がみられます。得意分野は郵政民営化だけで、全体的な戦略をもっていないことが、誰の目にも明らかなことです。

このことは小泉君が準備があつて首相になったのではなく、突然変異の結果であつたことを示します。だから、小泉は中曽根康弘が第二臨調で国鉄分割民営化を目玉としたように、郵政民営化を軸に政権維持をはかりたいといふのです。

小泉はなぜ郵政民営化に固執するのでしょうか。彼の郵政民営化論と「聖域なき構造改革」はどういう関係にあるのでしょうか。

小泉の考え方は①財政改革が進まないのは財政投融资のため、②財政改革にはこの改革の断行が不可欠、③郵政民営化は公共部門の構造改革の象徴、④それは金融界の構造改革とも連動するからというものです。

郵政三事業民営化で地域はさらに荒廃

小泉は国会答弁で「国鉄、電々は民営化されたが、けつしてなくなつてはいない」と絶叫してみせました。はたしてそうでしょうか。全国各地でレールがはがされてしまいました。その結果、町や村が日本地図から消されてしまいました。レールがなくなつたことによつて、町や村の荒廃は進み、過疎といわれる地域が棄民化されることは、北海道はむろん東北、四国、九州を旅してみれば明らかです。

国鉄におこつたと同じことが今、電々ⅡNTTにあらわれれています。電々公社ⅡNTTの窓口・営業局は町や村のメインストリートに位置しておりました。そのNTTの窓口・営業局が次から次へと姿を消しています。そして今では「幽霊屋敷」のように空き家となつてしまいました。NTTに働く者には配転、移籍、出向の波が襲っています。半端な配転ではありません。単身赴任か、それとも広域異動で、住みなれた町や村から「サヨウナラ」しなければなりません。

レールがなくなる、NTTの窓口が消えていくことは、地元で職場がなくなることでもあります。高校や大学の新卒者はどこに職を求めればよいのでしょうか。大都市に向け若者の民族移動が開始されます。地域からこうして若者の姿は消え、町や村にはお年寄りばかりがとり残され、過疎化と地域荒廃はさらにいつそう激しくなつてしまいます。

そこに、郵政三事業民営化と市町村合併の大嵐です。国鉄、電々では民営化政策は弱い地域をけ倒すことによつて強い地域がますます肥大化すること、強い会社は弱い会社の犠牲によつて、ますます肥大していくばかりか、都市部でも弱い者を打ち倒していること

が日々の生活で明らかになっていきます。全国の郵便局は二万五千といわれます。黒字でない郵便局が消されてしまうことは、国鉄、NTTの例にも明らかです。

連合労働運動の現状について

政労会見再開へ ユニオン連合の運動路線は「参加」である。要求を出し下から抵抗の運動をつくり「参加」を求めるのではなく、政労会見、政労資会談で連合の「政策・制度要求」を反映させることだ。この運動路線はこの九九年以来凍結状態にあった。自民党の社会保障制度改革に連合が反対し、自民党が連合との交渉を拒否していたためだ。

政労会見が、小泉の連合メーデー参加をきっかけに修復されることとなった。五月三日、連合事務局長が内閣官房長官と会談し、①政労資雇用対策会議、②政労会見再開をそれぞれ六月中旬、参院選挙後におこなうことで了承したからだ。

小泉政権に対する連合の見解は①看板を塗りかえたといっても自民党政治の本質は変わらない、②「経済構造改革」は働く者に犠牲をともなう危険性のあるもので、国民のための構造改革は自民党を中心とする与党三党体制では不可能、③民主党を基軸とした野党勢力の躍進で政権交代を実現したいというもの。これにたいし小泉の主張は「私が自民党総裁、日本国の総理大臣に就任したということは、ある意味では政権交代と同じ意味あいをもっている」というものだ。

「化け物」のような小泉人氣に連合、そして連合の支持を受ける民主党も当惑気味だ。小泉批判の一言一句にすぎない数の抗議が寄せられてくるというのである。そのゆえだけではあるまいが、連合、民主党の小泉批判のトーンは落ちていっているやに見受けられる。連合会長は、小泉の構造改革論は「ハードランディングを行うこと」としながら、「私たちも場合によっては必要な状況に日本経済が落ちいつていることを、否定しない」とし、①ハードランディングの際の問題点の説明、②たんに抽象的な「痛みは覚悟してもらわねばならない」という総論だけでは支持できないとも述べる。

連合会長の昨今の発言でもつとも矛盾に満ちているのが、小泉が直接に国民に訴える手法をドイツのファシズムにたとえていることだ。そんな政治状況をつくった大きな責任がユニオン連合にもあることは明らかで、そのことへの反省が皆無であることだ。

揺れる民主党 政労会見実現で小泉政権と連合のパイプはつくられる。それは民主党との関係に微妙な影響を与えることになる。七月の参院選で連合は四十選挙区で四十人の候補を推せんする。二七の選挙区をもつ一人区では二一選挙区で民主党候補推せん十三選挙区、無所属候補推せん八選挙区、社民党候補推せん一。比例区は九で出身組織は自治労、自動車、電機、ゼンセン、JAM、情報労連、電力、全通、日教組。

参院選で連合が民主党に申し入れたのは①積極的な雇用対策の訴え、②雇用を中心とした政策の準備、③政策で勝負である。

この申し入れも矛盾に満ちている。小泉の構造改革路線は別稿にあるように、さまざま要因と結びついて大量の失業者をつくり出す。これとたたかわないで「失業増」を前提に政策が組み立てられているばかりか、民主党に「政策で勝負しろ」ということは、小泉

の土俵に乗っかることをけしかけることと同じであるからだ。鳩山も小沢も小泉にエールを送り、「言葉どおりに実行せよ」というばかりではないか。

選挙関係者の危機感はきわめて強い。小泉人気も原因だが、組織の締めつけがまったくきかないらしいことだ。自治労では民主候補と社民候補に二分された。社民候補を推せんする県本部は一四県におよぶというし、他に新社会党を支持する組織もけつして少なくない。日教組では社民黨員を強引に民主党に入党させ擁立した。それへの批判が強いばかりか、ここで社民、民主、新社会と組織はわれているやに伝えられている。さらにとつぜんの郵政三事業民営化にゆれる全通では、職場での不安が増大し、組合員にとっては選挙どころではないからだ。

連合アカデミー開校に ユニオン連合は組織拡大への呼び声が高い。しかし、成果は上がっていない。理由はオルガナイザー（組織者）がいないこと、十分な財政保障がおこなわれていないこと、さらには組合の存在意識が低下していることだが、それらの弱点の「克服」策として、五月一七日、連合アカデミー・マスターコースが開校した。第一期生は二二組織三二人。政策、組織、交渉、基礎部門からなり講義とゼミで構成されている。

講座は前期、後期の二期に分かれ、修了者は論文を作成。ユニオン・マスターの資格が付与されるという。ちなみにゼミナールのテーマは①人間と労働組合、②世界と労働組合、③地球と労働組合、④地域社会と労働組合、⑤産業・企業と労働組合、⑥政治と労働組合である。

史上最低「春闘」のあとでは 二〇〇一年春闘は前年と同じ史上最低となった。しかし連合の「仲間まとめ」では、「ここ数年続いてきた前年比マイナス傾向に、辛うじて歯止めをかけた」とまさにノー天気な総括をおこなっている。それ以上に連合が問われなければならぬのは、春闘妥結後にすさまじい合理化がおこなわれ、五百円玉一枚の回答はすでにとりもどされてしまっている。

たとえば日立造船では五月から本社や造船部門全体に「今春闘での合意文を賃上げした」上で、手当や残業代を除いた基本給を最大八%削減する。しかし、造船重機労連はむろん連合からもこのすさまじい賃金切り下げにたいする抗議と怒りの声は聞こえてこない。これでは労働組合の存在価値が問われるばかりである。

◇ 編集 部 だ よ り ◇

▽ジャジャ馬オバサンこと田中真紀子の言動が波紋を巻き起こしている。その一、外務官僚へのムキダシの増悪。その二、「反米・親中」的発言と行動。その三、朝令暮改のごと発言修正。その四、庶民感覚を売りにした派手なバーフォマンズ等にある。

▽一と四は「反自民と反官僚」の現代世相にバカ受けし、二は「アメリカ一辺倒」の自民政治のアンチテーゼよろしく、右翼と「反米」傾向の人たちの耳目をそばだたせさせ、自民党内から猛烈な反発を呼んでいる。

▽三の「朝令暮改」に本性があるようだ。外務省からもれ伝えられるジャジャ馬オバサンの哲学は、この世は「家族・使用人・敵」の三つの人種からなるというのだ。己に「忠実」な者は家族、「逆らう」者は敵、他は「書生」という使用人というわけだ。角栄逮捕が彼女に刻印したのであろう。

▽小泉はジャジャ馬オバサンの「反米」的言動に椿をはめるべく、米のミサイル防衛網に「五項目」見解を明らかにした。一八日からの訪米は一つの転機となりそうだ。

小泉「行革断行」内閣で失業はさらに増加

— 失業発生構造は重層的 —

日本労働運動の構造的欠陥

日本の労働組合は企業内組合、企業別に企業の正規労働者を構成員とする組合として出発した。しかし、諸先輩は「企業内組合は組織化の手段には有効。しかし、自然発生性に依拠しつづけておれば将来、資本主義の病に犯される大きな要因となる」と、企業内組合の目的意識的克服の道を「総評・組織綱領草案」（一九五八年）に明らかにした。

この目的意識的追求は、「三井・三池闘争」（一九六〇年）の敗北、一九六〇年代以降の高度経済成長下での春闘のゆるやかな変質、生産性運動が企業内労働運動克服をめざす労働者を「怠け者・生産阻害者」として徹底的に差別・選別することで、「会社人間」、「会社社会」をつくり、労働組合を企業内に閉じこめることに成功し、第二次「産業報国会」時代が演出されることとなった。

この過程は、生産性基準原理の提唱と浸透（一九七四年）、中曽根第二臨調攻撃と一体で進化した労戦再編成（一九八〇年代）、総評崩壊とユニオン連合結成（一九八九年）である。連合結成を今ふり返れば、バブル景気まっただなか、日本的労資慣行（年功序列賃金制度、終身雇用制度、退職金・企業内福利厚生制度）に支えられた企業内組合の結集体として生まれだたことは明らかだ。

連合結成後、政治・経済情勢は激変した。まずバブルが崩壊した。バブル崩壊は行革・規制緩和で揺れ動き始めた自民党支持基盤を直撃し、自民党分裂と第一次政界再編成をもたらした。金融自由化で再びバブル景気を夢みだが、株式・土地価格の暴落が不良債権の天文学的累積をもたらし、金融恐慌状態となった。そして世界大競争である。間接金融、株式持ち合い、系列重視といった日本の経営慣行が一举に廃される風潮が出現。すべての企業がすでにピークをこえていた「株主の支配」に群れ走った。政府を先頭に、「三つの過剰（雇用・設備・債務克服）」というようにである。

失業者は一九九八年以降、激増した。失業増大は日本的労資慣行を揺さぶった。まず中高年労働者が「制度化」された首切り策で職場から追われた。「これでおれたちの出番」と成果・成績主義に期待した若年労働者には総額人件費管理、企業の支払い能力が襲いかかる。ノルマは極限まで高められる。合理化につぐ合理化がついに己の職場と職種を廃棄するよう強制する。すべてが「固まるまえに、古くさくなってしまう」（『共産党宣言』、岩波文庫版四三頁）のである。

「企業忠誠心」はとうぜんに薄くなる。それとともに「会社人間」、「会社社会」を基礎とした第二の「産業報国」という国民統合策は根っ子から揺れ動く。こうして、「労資関係は社会の安定帯」という日本独特の資本家の世界観は根本からくずれていく。失業問題は新たな労働運動の幕開けを告げると同時に、現政治情勢ともあいまって、労働者が安心して人間らしく働ける社会のあり方を問いかけるのである。

大量失業時代の到来

日本は一九八九年来、すでに大量失業の時代に入っている。四月の厚生労働省調査では失業者三百四十八万人、失業率四・八％という。しかし、実体は七百万人超、一〇％が真実を言い当てているようだ。というのは、家族・親族、友人・知人に「学校は出たけれど」「合理化でね」「出張なだけど帰ってきた時、机があるかしら」との会話が「ふつう」のことのように交わされているからだ。失業問題はこれからいよいよ本格化する。それは恐るべき規模と頻度に達すると思われる。以下の要因が複雑にからみあっているからだ。

第一は、資本の海外移転である。これは、プラザ合意（一九八五年）以降顕著となった。製造業から始まった生産拠点の世界化は、今では食、衣にまでおよんでいる。こうして、物をつくる職場が消えていく。

第二は、規制緩和である。大店法は全国の商店街を「焼け野原」にしてしまった。それに、「開発輸入」が拍車をかける。アジアの発展途上国の賃金は日本の二〇分の一から五〇分の一である。安い商品の流入は農林漁業、小零細商業主を労働者の隊列に投げ入れる。

第三は、技術革命である。世界史は「羊が人間を駆逐した」エンクロージャー運動、「機械が人間にとって代わった」産業革命が、文明と人間との関係を赤裸々に示し出す。現代はME（マイクロ・エレクトロニクス）、そしてIT（インフォメーション・テクノロジー）である。MEは一九八〇年代以降、工場を無人化、ロボット化してしまった。ITは製造業におけるこの過程を金融・サービス、卸・小売、運輸業で促進している。そして今、教育・公務労働、医療労働の分野に。機械が人間にとって代わった以上のスピードで、ME・ITが人間を食らっている。

第四は、そのスピードである。技術は約十年でふるくさくされる。やっとの思いで修得した技術はすぐに使い物にならなくなる。資本は新技術を使いこなせる労働者を求める。教育・訓練はつねに後追いなのだから、この面からも就業機会は失われる。

第五は、経済構造改革、そして行政改革、規制緩和である。

経済構造改革の眼目は金融システム安定に名を借りた不良債権処理である。その処方箋「緊急経済対策」は、「あなたの企業は再起不能。したがってお命ちょうだいします」というものだ。現在最大の構造不況業種・建設業に例をとれば数年間で、建設関係就業者七百万中百万人にも達するとの数字もある。中小零細企業への影響はさらに深刻だ。というのは銀行の総貸出件数は八六七万件、そのうち中小企業向けが九九・三％の八六一万件を占める。銀行の不良債権率は四・六％であり、計算上は八六一万件カケル〇・〇四六で、約四〇万件の中小企業が切り捨てられることになるからだ。公共事業見直し、地方交付金減額は必至という動きを加味すれば職を失う者の数はさらにふくれあがる。

規制緩和はNTT、郵政三事業に象徴的にあらわれている。「変革」、「聖域なき構造改革」を売りとする小泉は特殊法人等の新たな民営化まで叫び始めた。中央省庁再編後の行革の新たなステップと位置づけられる教育改革、公務員制度改革と相まって、かつての国鉄分割民営化時を上回る悲劇・混乱が全国的にもたらされる。

小泉は「首切り」内閣たることを宣言した。失業は短・中期的にすさまじくふえる。そして、経済・社会問題から政治問題に発展する。労働組合の存在意義を問われる最重要課題となる。

強制配転大反対

—人の道にはずれている—

本日付け（六月一日）で近畿管内だけでも千名近い労働者が「人事交流」という名の強制配転で職場をかわらされる。この局、この地域で長年働いてきた無理矢理とばされる労働者も決して少なくはない。〇〇さんの顔を見ると郵便局が連想される、そんなに地域で親しまれている労働者も多くいるはずだ。もったいない話した、こんな財産を捨てざるほど経営も豊かではないはずなのに。クロネコやペリカンが笑っていることだろう。

さて今回の状況を見てみると、役員・罹病・要治療者・年配者に交流が集中している。とりわけ、要治療者・年配者に対しては、イヤガラセ・イジメとしかうけとれない。長年郵政省（事業庁）につとめ、その仕打ちがこれである。まさに非人間的である。このようなことを平気でやる連中は、自分の子どもや孫にどんな道徳教育をやっているのだろうか。人の道にはずれている。人材育成などとはまったく考えられない、たんなる労働者イジメ、みせしめ配転としか受けとめられない。断固として抵抗するものである。

この間の「人事交流」により集配職場では、誤配申告は増え続ける一方。配転さえなければ出さなくてもいい超勤や遠隔地ともなれば交通費だってバカにならない。どこか歯車の狂った郵政職場となっている。このままいくと、公社の前に立ち枯れというウキメにあうかもしれない。その時は、誰が責任をとるのでしょうか。『悪因悪果』（全通・T）

◇読者からのおたより◇

感謝、感謝 送金の遅延、相すみません。社会の通信としてがんばってくださいすることに、感謝、感謝の連続です。（徳島・K）

編集部より 日本のジャーナリズムはあまりにも巨大化しすぎました。編集と営業が対立し、営業が力をもつてしまいます。その結果、流れに相乗り、テレビなどはその典型です。ジャーナリズムは「個人業主」がいいのかもしれませんが。がんばる。

議席回復！ 参院選もいよいよ迫ってきました。政党要件回復のためがんばる。（兵庫・N）

編集部より 世界的に保守と革新のカキネがくずれています。その中で存在感を示しているのが「小さな」政党です。日本も例外ではない時代の到来はまじかです。

候補者となって 候補者（予定）となって九ヶ月、残り二ヶ月です。リストラ社会を転換させ、安心して健康で働き続けられる社会にするため全力をつくします。国会議席の回復をめざし。（千葉・O）

編集部より 小泉批判をやっていしてやってください。今の日本で三十年おくれのサッチャリズムは百害あって一利もないのですから。

大合理化の中で 目の前に大きな合理化攻撃が来ているのに、力が入りません。わかりません、メンテナンス合理化。新得会でみんなに会って元気な姿を見たい。（神奈川・H）

編集部より 「わからない」ってどういうことかしら。くわしくご報告いただければ嬉しい。とにかく、仲間と話してよ。Hさんのおっしゃるとおりだもの。

今こそ護憲の大道を マスコミの「高支持率」騒動の中で小泉内閣の出現。すかさず「週刊新社会」（五月八日付）が、「戦後最悪の改憲内閣」「平和の敵」と断じ、対決を宣した。今こそ、護憲の大道をしたたかに歩み続けたい。（沼津・T）

編集部より 小泉は自民党支持基盤をつぶさなくては生き残れない、他方「自民改革」をやらなければ墜落してしまふ。小泉内閣の性格とはこういうものです。

遅れてスマン 日々お世話になっています。遅くなってすみません。

(埼玉・U)

編集部より 送金、感謝。お身体いかがですか。ご自愛を。

定年、取扱い変わります 冠省、連日のご健闘に感謝申し上げます。人間を人間とみない社会、リストラに抵抗もしない組合、今は辛い冬の時代かも知れませんが、労働者は必ず立ち上がると信じます。長い間お世話になって来ましたが、この三月定年となりました。取扱者を次の方に変更しますので何卒よろしくお願い申しあげます。

(青森・N)

編集部より 多くの読者が定年を迎えていらつしやる。鈴木さんもそのお一人。まだこれから。さらになんばつて。

住民自治の新しい前進

小さな村で日本史の一頁をかざる大きなできごとがおきた。住民の多数が東京電力・国のすすめるプルサーマル計画にノーの投票をしたのだ。住民の意思で物事を決める住民自治の新しい前進Ⅱ歴史に残る大きなできごとと思う。地方自治の仕事にたずさわる我々は「住民自治の視点」からも刈羽村を評価したい。もちろん「原発やめよ」運動史上でも画期的勝利だが：

(自治体労働者・Y)

編集部より 次号で現地の仲間に報告していただきます。

「熱い人」が好き

総理が変わったようですが、今度の小泉氏は何をするんでしょう？ 僕としては「エネルギーに溢れている人」だなあと思いました。日本の総理にありがちな「何もせず交代」する可能性もなきにしも非ずですが、一国の頂点に立つ者にはパワーがいるはず。だから僕は「熱い人」が好きです。だって国を背負って立つ人がヨボヨボのじーさんだと不安でしょう？

(埼玉・O)

編集部より 若者の「小泉像」をありがとう。あなたと同じ気持ちの小泉人気背景はなんでしようね。それに楽しいマンガも。

「窮屈」 最近、職場が「きゅうくつ」でしょうがない。バイクにメットにかばんにロッカー、なんでもかんでも名前のシールがはつてある。小学校に入学した時を思い出す！

近頃、職場が「きゅうくつ」でしょうがない。メットをしまう向きが決まっている。防寒着をかけるハンガーラックは撤収された。そんなに見た目が大事かよ！

やっぱり「きゅうくつ」でしょう。やっと区分機が導入される。一区一名減が決まっている。区分機が入るからといって、うちの局ではそんなに余裕ができるわけではない。それでも一区一名減が決まっている。そんな状況では営業なんてできやしない。あーできやしない。ますます職場が、「窮屈」でしょうがない！

(全通組合員・C)

編集部より 「窮屈」なのは日本社会全体の傾向。管理統制です。職場の休憩所にもビデオカメラが設置されるほどのだから。「窮屈」克服も労組の課題。

平和憲法をどう守る 五月三日、東京の日比谷公会堂で開催（市民団体共催）された「生かそう憲法、高くかかげよう第9条」集会に参加した。開場一時間前に会場に着いたら、数千人が並んで開場を待っていた。開場時間十二時半になっても、次から次へと参加者が押し寄せ公会堂内（二千八席）満員。数千人の仲間が日比谷公園にあふれた会場外には、集会の様子がスピーカーの高い音で伝えられた。開会者の挨拶「こんなに沢山の方が集まり感動しています」と。私の後の女性は「せっかく函館から来たのに、会場に入れず残念だ」と。会場付近では、右翼がスピーカーで「アメリカに押し付けられた憲法を改めよう」などと叫んでいた。

(神奈川・K)

編集部より 私も参加したのですが、入れなかった。公園内で森林浴を気取ってみたものの曇り空で残念！

メール開設おめでとうございます 私は、いま、青山学院大学で若者に混じって勉強しています。四〇年ぶりの英語・物理・哲学それに第二外国語のスペイン語など、大変ですが面白いと思っています。それと、私は吹奏楽が好きなので青学の吹奏楽サークルにも入りたいと思っています。新社会党も大変な時ですが、定年を迎えた折りですし少し休憩して、四年間は勘弁してもらおうと思っています。社会通信の記事は読んでます。京成の事を取り上げて頂きありがとうございます。また、介護保険の問題や年金・高齢者の問題など、退職して始めて切実な問題として考えるようになりました。お互いに頑張りましょう。

(鈴木 賢二 (Kenji Suzuki) [E-mail] s-kenji@msh.biglobe.ne.jp)

[URL] <http://www2u.biglobe.ne.jp/~s-kenji/>

編集部より 人生八〇年の時代。勤続四二年をリフレッシュして、次の闘いに加わって！
社会通信社の E-mail は、shakaisushin@nifty.com です。